



新校舎で初めての文化祭

～時と共に変わりゆくもの、変わらないもの～

広島なぎさ高等学校
教諭 山口 将宏

変化の中で

本校は平成20年4月、校名を「広島なぎさ中学校・高等学校」に改めると同時に、新制服を導入した。さらに8月には待望の新校舎が竣工し、長年慣れ親しんだ三宅キャンパスを離れ、新たな地で教育活動を再スタートすることとなった。

ひらがなを含んだ校名。プレザーであるにも関わらずネクタイがなく、代わりに前立て付のシャツという斬新な制服。前衛的なデザインの校舎。どれも少し前では想像することもできなかった様な新しさに溢れている。そうした目まぐるしい変化の中で行われることになったのが、今年の第44回文化祭である。

本校にとって文化祭は年間最大の行事である。早いクラスでは7月に企画が決まり、夏休み・秋休み等を利用して準備を進め、11月半ばの文化祭本番に備えてきた。それと比べ、今年は全く様子が違う。8月に校舎が完成し、生徒が初めて新校舎に来たのは9月になってから。10月になっても校舎内で迷子になっている生徒が(教員も)いる始末である…。大丈夫なのだろうか？

不安と戸惑いを覚えながらも大きな期待を胸に、我々は新校舎で初めての文化祭に向けて遅いスタートを切った。

生徒主体の文化祭づくり

文化祭の準備が始まると、案の定各クラス・クラブから寄せられる連日の質問と調整の依頼。道のりは険しそうである。しかし、こうした質問を寄せてくるのも、それに対応するのも教員ではない。その殆どが生徒である。

本校では文化祭を行う上での方針として、第一に「生徒の主体性」を掲げている。どのような文化祭を創り上げていきたいのかを生徒自身が考え、話し合い、協力して取り組んでゆくの、これまで受け継がれてきた本校の文化祭の特徴である。文化祭の運営は生徒会執行部の調整で行われる。そうした中で、生徒は時に困難と出会い、失敗し、衝突し、議論し、新たな取り組みを模索していく。生徒主体であるからこそその人間力の育成である。

教員もそうした生徒をただ見ている訳ではない。生徒達だけでは解決できない

問題については最大限のフォローをするし、何より生徒が文化祭に積極的に取り組んでいく環境づくりには努力を惜しまない。

環境への配慮

本校が文化祭を行う上でのもう一つの指針となるのが「環境への配慮」である。この取り組みは数年前、文化祭で出た大量のゴミに対する反省を受けて始まったもので、具体的には一年草を原料とする容器の使用や廃材の再利用等を行ってきた。

今年度はさらに油化装置(プラスチックを高温で石油に変える装置)を導入し、日常的に校内で発生するプラスチックゴミの有効利用を図った。美化委員会を中心に、ペットボトルのキャップを回収し、それを油化装置を利用して石油に変え、その石油で発電機を動かし、ステージの電力をまかかった。



油化装置

こうした取り組みによって減らすことのできる環境への負荷は、大きなものではないのかもしれない。しかし、こうした活動を生徒自身が体験することで、環境・共生の意識が芽生え、それが未来の循環型社会の実現に繋がっていくことを期待している。

校内発表日

11月14日、文化祭1日目は校内発表が本校体育館で行われた。今年度の文化祭のテーマは「supernova-超新星-」である。考案者は中学3年の生徒で、「文

化祭に向けて準備してきたことを、当日最高の光として放ちたい。そして来場者も迎える生徒も眩しい笑顔になって欲しい。」という想いからつけられたテーマである。

ステージでは演劇にダンス、クラシックの演奏等が行われ、どれもテーマにひけを取らない出来映えで、盛況の内に幕を閉じた。



模擬店

一般公開日

16日、前日の雨の予報とは裏腹に眩しい朝日の下、人工芝のグラウンドで開会式が行われ、一般公開日がスタートした。中庭・体育館・多目的ホールの3つのステージが設けられ、中庭ではバンド演奏やクイズ大会、体育館では演劇やクラシック演奏、多目的ホールでは合唱コンクール等、それぞれに個性豊かな催しが行われた。校舎内では迷路やお化け屋敷、研修旅行展等、創意に富んだ企画が来場者を迎えた。一方のグラウンドでは、人工芝でのサッカー体験、ストラックアウトが催されると共に、その横には模擬店が軒を

連ね、立ち昇る香りに大勢の来場者が列を成した。来場者は5,000人を超え、新校舎初の文化祭は未曾有の盛況振りであった。

不易流行

初めにも書いた通り、今年度は本校にとって正に変化の年であり、文化祭もそれに合わせて大きな変化を遂げた。こう

した変化は社会、そして生徒が変わり続ける限り、今後も必要なものだろう。しかし、そうした中にも生徒の主体性の重視や、共生意識の育成といった変わらない想いがあったように感じている。今後もそういった想いが伝統として遺されてゆくことを期待したい。

一般公開日が無事に終わり、片付けの後で生徒会室に顔を出してみると、大きな行事を終えた安心感からか、数人の生徒が涙を流していた。久し振りに透明なものを見た気がした。

数日後、生徒会執行部で文化祭の反省会が開かれた。用意された反省会の資料はB5版で13枚。どうやら来年も私の仕事は少なそうである。



研修旅行展の金閣寺



校内発表でのダンス